

この互版では、釜戸地区・大湫地区の皆さんを対象に、「地域活性化に向けた新たな拠点（道の駅）」の検討の状況等について随時お知らせしていきます。

“地域活性化に向けた新たな拠点” って何のこと？



- 瑞浪市においても人口減少・少子高齢化が進行しており、今後、地域の活力をいかに維持していくかが大きな課題となると考えられています。
- 一方で、岐阜県下では、2027年度のリニア中央新幹線の開通に伴う道路整備等が進められ、本市においても国道19号瑞浪恵那道路が整備されることから、これらをきっかけとした地域活性化を進めていくことが重要と考えます。
- これらを背景に、本市の課題解決に向けた住民のための施設として、また、国道19号瑞浪恵那道路の利用者のための施設とすることを目的として、およそ10年後を目標に、地域活性化の拠点（釜戸地区のまちづくりの核・道の駅）を整備するための検討を始めました。



地域活性化に向けた拠点施設は、およそ10年後このあたりに整備することを検討しています。



計画予定地

どんな施設にしたいのか、みんなで考えないとね！



市民のみなさんのご意見をお聞きしています

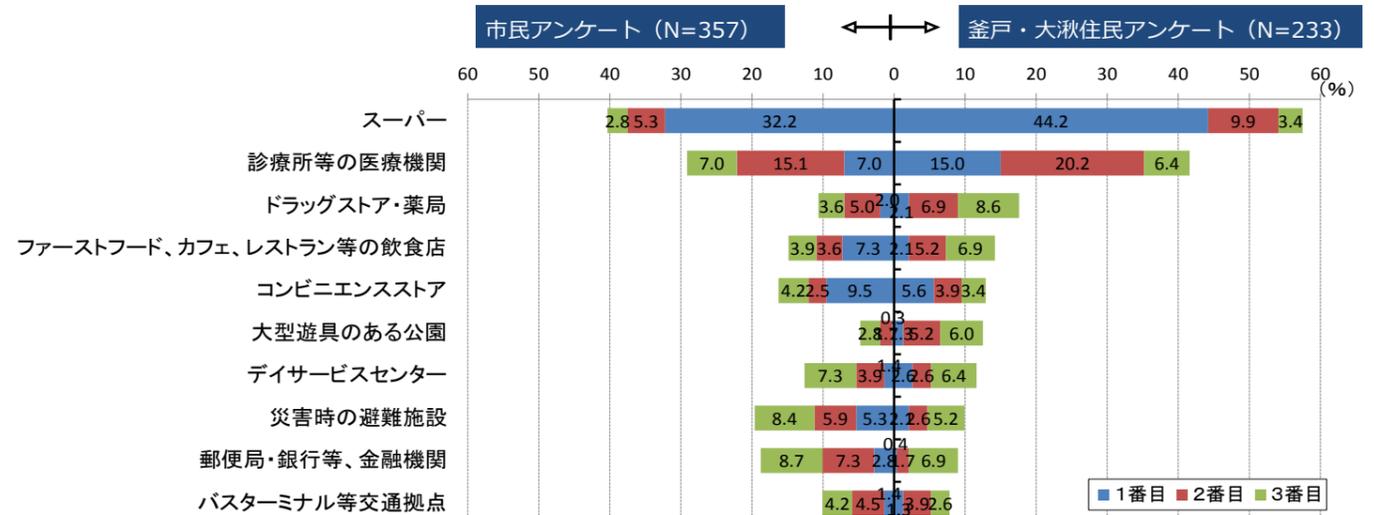
- 地域活性化の拠点（道の駅）の整備にあたり、市民のみなさんには、アンケート調査、検討委員会、ワークショップ等においてご意見をいただきましたので、主な結果をお知らせします。



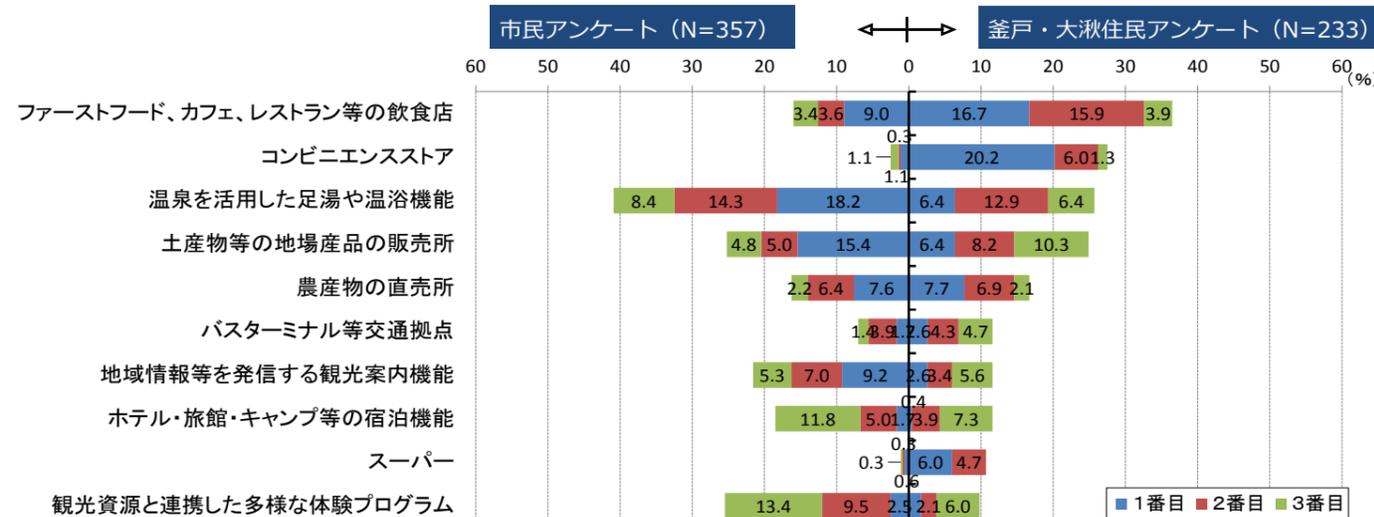
■ アンケート調査を実施しました

- 「瑞浪市市民生活の現状についてのアンケート（市民アンケート）」、及び「地域活性化の拠点整備に関するアンケート（釜戸・大湫住民アンケート）」を実施し、主に、地域活性化の拠点として必要な施設や機能についてお尋ねしました。
- 地域住民の視点では、いずれの調査からも「スーパー」「診療所等」が上位となっていますが、特に「スーパー」「診療所等」については住民アンケートで、「避難施設」については市民アンケートで多くなっており差が見られます。
- 一方、道路利用者の視点では、市民アンケートで「温浴機能」「体験プログラム」が上位となっていますが、住民アンケートでは、「飲食店」「コンビニエンスストア」が上位となっています。

【地域住民の視点で必要な施設・機能（アンケート上位の回答）】



【道路利用者の視点で必要な施設・機能（アンケート上位の回答）】



■ 検討委員会（H30.3.19（準備会）／H30.6.27（第1回））を開催しました

- 岐阜大学の原田准教授、出村准教授を学識経験者に迎え、釜戸・大湫地区の委員の皆さんを中心に、瑞浪市道の駅検討委員会を組織し、拠点整備について検討をしています。
- これまでの検討委員会では、会議の目的や検討内容等について確認したうえで、実施しているワークショップやアンケート等についての結果を確認しました。



検討委員会の様子

<主なご意見>

- ・アンケート結果から、拠点整備事業に関わっても良いという意見が多数得られました。そのような方の意見を、どのように基本構想に取り込んでいくのか、また、そのような人たちが関われる仕組みづくりが重要ではないかというご意見をいただきました。また、道路利用者の視点からみた拠点整備の導入機能については、住民側からの推測であるため、別途、潜在的ニーズを拾い上げる調査が必要であるという結果となりました。
- ・ワークショップについてはワークショップにも参加いただいている委員の方から、幅広い年代で意見交換をすることにより、長年住んでいるにもかかわらず、新たな発見があったことなどをご紹介いただきました。

■ ワークショップを開催しました

- 釜戸・大湫地区を中心とした市民のみなさんに参加いただき、まちづくりの視点から地域活性化の拠点（道の駅）の整備にあたりご議論いただくために、これまで3回のワークショップを開催しました。

第1回「釜戸地区の現状についてみんなで話し合おう」（H30.5.26）

- 第1回は瑞浪市や釜戸地区の現状や社会潮流等を説明したうえで、委員の皆さんに釜戸地区の好きな点と問題点についてざっくばらんにご意見をいただきました。
- 釜戸地区の好きな点について多くのご意見をいただきましたが、人口減少や高齢化など、地区の将来を考えると、問題点も少なくないということを確認したワークショップでした。

<参加者のみなさんの主なご意見>

好きな点	問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・住民にまとまりがあり、地域活動も盛ん、また子供の見守りなども積極的 ・駅があるので人を呼び込める ・普通に住みやすい ・自然が豊かで、街道沿いに歴史が残っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者・子供の流出や一人暮らし高齢者の増加、空き家の増加 ・買物できる店がほぼなく、また、通院等も車がないと不便 ・特産もなく、温泉が出ているのに活かせておらず、地域の目玉がない



ワークショップの様子

第2回「釜戸地区を歩きながら、良い点や改善すべき点を探してみよう」（H30.6.9）

- 梅雨の晴れ間のなか、実際に計画地周辺を歩きながら、「暮らしの視点」や「人を呼び込む視点」から気になった点について写真を撮っていただき、地図上に整理していただきました。



まちあるきの様子



とりまとめの様子



まちあるきのとりまとめ結果



まちあるきの様子

<参加者のみなさんの主なご意見>

- ・釜戸駅と整備予定地間に点在するある**様々な資源の発掘**や、**佐々良木川の水辺利用**のほか、**竜吟の滝や水晶山への周遊を促す仕掛け作り**が必要といったご意見をいただきました。

第3回「釜戸地区の将来像について考えよう」（H30.6.23）

- 第3回は、中京高校の学生のみなさんにも参加いただき、釜戸地区の将来像（釜戸地区における理想の暮らし方）を考えていただきました。



とりまとめ結果

<参加者のみなさんの主なご意見>

- ・釜戸地区が将来にわたって「人が住み続けている」ためには「**日常的な買い物ができること**」や「**子どもが安心して遊べる公園**」が必要といったご意見をいただきました。また、「**釜戸を訪れる人を増やす**」ためには、「**農を活かした販売の仕掛けづくりと特産品づくり**」、「**空き家を活用したイベント開催**」といった具体的にご意見をいただきました。
- ・このような将来像の実現には、交通環境の改善や SNS などを活用した情報発信も重要というご意見をいただきました。

今後のスケジュール（予定）

- 現在、想定している今後のスケジュールは次の通りです。

	日程	主な内容
ワークショップ	第4回（H30.8.25）	○地域活性化の拠点のあり方について考えよう 地域活性化の拠点が整備されるとしたら、どのような拠点とすることが望ましいか、具体的な施設のあり方や必要な取り組み等についてみんなで考えます。
	第5回（H30.9.29）	○地域活性化の拠点との関わり方を考えよう 10年後に地域活性化の拠点が整備されたら、参加者の皆さんはどのように関わりたいか、どのように利用したいかについて話し合います。
検討委員会	第2回（H30.7月下旬）	○コンセプトの検討、導入機能の検討
	第3回（H30.11月下旬）	○施設規模の検討、配置計画の検討
	第4回（H31.2月中旬）	○基本構想（案）の最終確認

<お問い合わせ先> 瑞浪市建設部都市計画課 TEL : 0572-68-9817 Email : tokei@city.mizunami.lg.jp